

# かがやく小川っ子 —学力・体力の向上をめざして—

和歌山県有田川町立  
おがわ  
小川小学校  
全校児童数73名  
(男子32名 女子41名)

実践  
内容

## 実施目的

- ① 体育授業における確かな学力や体力を子どもたちに身に付けさせるため、研究授業を基軸に日々の授業実践を通して授業改善を促進し、児童の充足感や達成感を味わわせるとともにコミュニケーション能力の向上を図る。
- ② 始業前や昼休みにおける取組や、様々な体育的行事を通して、運動に親しむとともに、体力の向上を図る。
- ③ 遊びの中で基礎的な動きを身に付けながら体力向上を図るための、施設設備や遊具類の環境整備を行う。

## 実施内容

### 1 体育授業の充実

#### (1) 運動意欲を喚起させるための指導の適正化

子どもの実態を把握し、実態にあった単元構成を考えています。また、運動の特性にふれながら、意欲をもって取り組める教材・教具を工夫しています。

#### (2) 主体的な「学び」の育成

基本的な学習の進め方を身に付けさせるために、【めあてをもつ・活動する・振り返る】という学習展開を基本とし、授業における「伝え合い、高め合う学びの場」を重視しています。

#### (3) 指導の適正化を図るための自己評価の実施

子どもの自己評価による情意面の心情調査を行うことにより、次時への指導に生かすようにしています。そのことによって子どもに活動を振り返らせ、学習意欲の喚起にもつなげています。

#### 【振り返りカードによる心情調査の項目(高学年)】

- ・今日の授業で一生けんめいがんばれましたか。
- ・今日の授業で上手になったことがありますか。
- ・今日の授業で何か見つけることができましたか。
- ・今日の授業で友達と協力することができましたか。
- ・友達にほめてもらったり励ましてもらったりしましたか。

- ・今日の授業で自信がついたりやる気が出たりしましたか。
- ・今日の授業は楽しかったですか。

### 2 始業前及び昼休みにおける取組

#### (1) さわやかタイム

毎週火曜日と木曜日の8:20から8:35まで、年間80回にわたり、ドッジボール、鬼ごっこ、縦割り班別対抗リレー、県教委推奨「きのくにチャレンジランキング」等を実施しています。

#### (2) 全校あそび

毎週木曜日の13:10から13:30まで年間35回、遊びを通して体力向上の取組を行っています。(児童の計画・運営)

### 3 体育的行事の実践

- ① 水泳大会・駅伝大会・運動会でのリレー等、縦割り班で実施しています。
- ② 地方レベルで実施される相撲大会・水泳大会・陸上競技大会・駅伝大会・マラソン大会等へ積極的に参加するとともに、それに向けての練習を始業前や昼休み・放課後に実施することで体力向上を図っています。

### 4 運動環境の整備

- ① 運動場の芝生化により、体力向上・地域コミュニティの活性化を図っています。
- ② 運動場にサッカーやバスケットボールのコート、相撲の土俵を設置したり、一輪車や竹馬等をそろえたりすることで、遊びの環境を整えています。

## 実施上で工夫したこと

- ① レディネスを単元計画に生かすことや、子どもの情意面を重視することで指導方法を改善しました。

## 主な成果

- ① 心情調査によって1時間ごとの子どもの情意面を把握し、次時の指導に生かすことで、意欲的に学習に取り組む子どもが増えました。
- ② 子どもが互いに運動を見合って評価し合うことを大切にしていた結果、互いに高め合う姿が見られるようになりました。
- ③ 運動場を全面芝生にしたことにより、休憩時間に外へ出て遊ぶ子どもが増えました。また、裸足で駆け回る子どもが見られるとともに、怪我が非常に少なくなりました。

## ● 体力合計点の3年間の変化

(点)

第5学年	H21	H22	H23
男子	59.0 (54.2)	53.4 (54.4)	53.3 (-)
女子	59.3 (54.6)	59.2 (54.9)	60.4 (-)

※ ( ) は全国体力調査の全国平均

平成22年度の男子は全国平均と比較して同レベルで、女子は高いレベルであると言えます。今後、個々の課題を明確にして体力向上を図っていきたいと考えています。

## 学力・体力の向上をめざして

### 運動意欲を喚起させるための指導の適正化



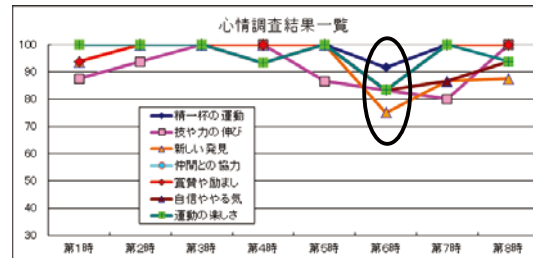
### 主体的な「学び」の育成



レディネスチェック等を活用した上で子どもの実態にあった課題を設定し、学習過程の最適化を行う。  
また、関わり合いを豊かにするための教材・教具の準備や検討を行ったり、全学年で研究授業を実施したりして、子どもの体力・技能、指導者の指導技術の向上を図る。

### 指導の適正化を図る自己評価の実施

時間と好意的反応の割合	第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時	第7時	第8時
精一杯の運動	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	91.7	100.0	100.0
技や力の伸び	87.5	93.8	100.0	100.0	86.7	83.3	80.0	100.0
新しい発見	93.8	100.0	100.0	100.0	100.0	75.0	86.7	87.5
仲間との協力	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	83.3	100.0	100.0
賞賛や励まし	93.8	100.0	100.0	100.0	100.0	83.3	100.0	100.0
自信ややる気	100.0	100.0	100.0	93.3	100.0	83.3	86.7	93.8
運動の楽しさ	100.0	100.0	100.0	93.3	100.0	83.3	100.0	93.8



毎時間、低・高学年ごとの観点に沿って個人でふり返りを行う。それをもとに一人一人の自己評価を指導者が把握・分析し、次時以降の授業計画に活用することで、子どもの意欲・関心を反映した授業作りに努める。  
上図の単位では、第6時において全項目の好意的反応が下がったので、子どもの感想や授業の反省からその原因を考え、第7時以降の授業に活かした。

### 外部指導者（地域のスポーツ指導者）による専門的な指導



水泳・球技・陸上など、様々な分野のエキスパートを招聘し、理論や実践にもとづいた具体的な指導を受けることで、子どもの運動技能や教員の指導力向上を図る。（各3時間程度）

### さわやかタイム



毎週火・木曜日の全校朝会で、基礎的な体力を高める運動に取り組む（15分程度）。また、県教委が薦める「きのくにチャレンジランキング」に登録したり結果を校内に掲示したりして、子どもの意欲向上に努める。

### 全校あそび



毎週木曜日の昼休みに児童会や体育委員会主催の全校あそびを行う。ほぼ全員が自発的に参加し、ドッジボールや鬼ごっこ等の外遊びを楽しむ。異学年との交流を通し、運動の習慣化や体力アップにつながっている。